

令和2年3月31日

研究開発完了報告書

住所 岩手県盛岡市内丸10番1号
管理機関名 岩手県教育委員会
代表者名 佐藤 博

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和元年5月31日(契約締結日)～令和2年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 岩手県立大槌高等学校
学校長名 瀬戸 和彦
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

大槌高校三陸復興みらい創造プロジェクト(大槌高校魅力化構想)

4 研究開発概要

(1) 「三陸みらい探究」(学校設定科目)

三陸沿岸部の地域課題について探究し、地域のリーダーを育成する。

(2) 「三陸復興ラーニングジャーニー」

復興に取り組む市町村や学校を訪問し、復興課題に取り組むための視野を広げる。

(3) 「大槌発みらい塾！」

大槌町内外の職業人に職業観や職業体験を語ってもらい、人生設計の一助とする。

5 教育課程の特例の活用の有無

学校設定科目「三陸みらい探究」を設定し、1学年2単位、2学年2単位、3学年1単位を実施し、1学年は「総合的な探究の時間」を「三陸みらい探究」に代替するとともに、「社会と情報」2単位から1単位を減じて「三陸みらい探究」に代替する。

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業、教育課程等に対する指導・助言・訪問	➔											
運営指導委員会								1回			1回	
コンソーシアム会議				1回			全国サミット					中止
大槌高校魅力化構想会議				2回								1回

(2) 実績の説明

ア 管理機関による事業の管理方法

(ア) 事業内容について、学校（副校長）と随時連絡を取りながら、指導・助言を行った。

(イ) 学校訪問を行い、「三陸みらい探究」「大槌発みらい塾！」等の授業を参観し、指導・助言を行った。

(ウ) 運営指導委員会、コンソーシアム会議を主催し、事業の運営、改善を行った。

イ コンソーシアムの構成について

大槌高校では町が主体となり平成30年12月に大槌高校魅力化構想会議を設置し、本会議を母体として、令和元年7月に岩手県教育委員会が主体となりコンソーシアムを設置した。

コンソーシアムの構成団体

- ・岩手県教育委員会（管理機関）
- ・東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター
- ・大槌町教育委員会
- ・認定NPO法人カタリバ
- ・大槌町商工会
- ・大槌町立学校長会
- ・大槌町議会
- ・大槌高校PTA

ウ カリキュラム開発等専門家の配置について

認定NPO法人カタリバ 菅野祐太氏（大槌町からNPOへの業務委託）が担当し、大槌高校で週5日常駐し、教員と連携しながら研究開発に係る取組の推進や「三陸みらい探究」などの本事業に係る取組の運営、実践を行った。

また、運営指導委員会やコンソーシアム会議等の企画等を担った。

エ 地域協働学習実施支援員について

(ア) 認定 NPO 法人カタリバ 起塚拓志氏（大槌町から NPO への業務委託）が大槌高校に週 5 日常駐し、「三陸みらい探究」や「大槌発みらい塾」の企画・運営を担当した。

(イ) 認定 NPO 法人カタリバ 三浦奈々美氏（大槌町から NPO への業務委託）が大槌高校に週 4 日常駐、「三陸みらい探究」や「大槌発みらい塾」の企画・運営を担当した。

オ 管理機関における主体的な取組について

(ア) 大槌町よりカリキュラム開発等専門家 1 名、地域協働学習実施支援員 2 名の配置

(イ) 管理機関による、継続的な取組を行うための教職員の加配 1 名

カ 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

大槌町と大槌高校は「震災伝承推進活動に関する協定」を交わし、町の文化交流施設に本校の特徴的な取り組みである復興研究会の常設展示を行っている。

キ 事業終了後の自走を見据えた取組について

本事業により開発した研究内容について、事業終了後も充実発展させていくとともに、管理機関により、所管する高等学校へ広く周知していく。

また、大槌町では、大槌町教育大綱（平成 30 年 3 月公示）、大槌町第 9 次総合計画（令和元年 3 月公示）、大槌町子供の学び基本条例（令和元年 3 月公示）において「地域を舞台とした魅力的な高校教育の実現」を示しており、上述の通り町独自の予算で高校魅力化推進員を 3 名配置した。また令和元年 11 月には、大槌高校魅力化構想骨子を示しており、町・高校及び地域が拠って立つべき指針を明らかにしたところであり、事業終了後も積極的に本取り組みを行っていく。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校設定科目「三陸みらい探究」における、地域での探究学習							1回		1回			
地域や職業人、大学の研究に関する講話				1回		1回				1回		1回
町立中学校との合同授業			1回									

(2) 実績の説明

ア 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

(ア) 大槌高校魅力化構想骨子の策定

大槌高校では、本事業の一層の推進のため、子供、高等学校、保護者、地域、町行政などの各機関が拠って立つべき指針を「大槌高校魅力化構想骨子」にまとめた。

a 研究の背景

策定にあたり前提にすべき社会の背景を①技術革新（Society5.0）、②人生 100 年時代、③広がる格差とし、また岩手県の示した総合計画や教育振興計画を参酌し、

大槌高校が存置する大槌町の課題として①東日本大震災からの復興、②進む人口減少、③大槌高校が統廃合となった場合の社会・経済的損失の大きさを挙げ、地域と協働した魅力ある大槌高校改革の必要性を明らかにした。

b 設定した目指す人材像

上記の背景より、大槌高校で育成すべき人材像を以下のように設定した。

- ・意志がある（自立）
自らの志を深め、物事を探究する意欲を持ち、自らの進むべき道や地域社会の課題をジブンゴトとして、主体的に行動ができる人
- ・仲間とともにある（協働）
世代や地域、言語が異なる人との交流を通して、他の価値観や文化等の多様性を受容し、立場の違いを越えて共創することができる人
- ・逆境から創り出す（創造）
予測できない未来や想定外のこと、困難な状況を乗り越えるためのしなやかな心を持ち、必要に応じて助けを求め、体験から学びを得ようとする姿勢を持ち合わせ、新しい価値を創ることができる人

c 目指す人材像が育まれる大槌の地域性

上記の目指す人材を育むため、地域・高校・町行政・保護者など高校生を取り巻く関係機関が持つべき学びの土壌を大槌の自然に準えて以下の4つに設定した。

- ①海－地域－、②空－希望－、③山－多様性－、④風－挑戦－

d 学校の目指す姿

大槌高校が目指すべき指針を以下のように設定した。

- ①生徒一人ひとりの目標が応援されそれぞれの持つ強み（大槌）を見つけられる学校
- ②未来社会に生きる力をつける学校
- ③多様な価値観で多様な個性を支える学校
- ④地域が学びを育て、学びが地域を育てる学校

(イ) 学校設定科目「三陸みらい探究」の開発

今年度より学校設定科目として設置した「三陸みらい探究」では以下のように取り組んだ。三陸みらい探究では、2学年において各生徒がテーマを設定して行うプロジェクト学習を実施する予定である。1学年ではその準備段階として、自己理解活動や大槌町の行政課題を知る活動、課題解決の事例視察や体験活動等の機会を設定した。

時 期	内 容	各単元のねらい（連続性）
4月～5月	自分紹介プレゼンテーション [目的] 今後の探究を進めていくために必要な自ら課題を設	自分を内省し表現する 相手に伝わる

	<p>定する力を育むためには、自己発見・自己理解を通して自分なりの視点を獲得する。</p> <p>[内容]</p> <p>自分を紹介するプレゼンテーションを作成し、町内の中学生に発表する。</p>	<p>よう表現することを通じて自己を内省する。</p>
6月	<p>大槌発みらい塾！</p> <p>[目的]</p> <p>町内外の多様な年代の方々との交流や価値観の触れ合いを通して、自らの生き方・考え方を見つめ、今後の進路・自らの未来を考える材料とする。</p> <p>[内容]</p> <p>町内外で働く大人（大学生2名含む）を10名招き、歩んできた進路選択や今の仕事のやりがいについて小グループごとにヒアリングを行う。</p>	<p>生き方を知る</p> <p>他者の生き方や進路をみつめることを通し、地域や社会へどう関わりたいかを考える。</p>
9月～11月	<p>SIM おおつち 2030</p> <p>[目的]</p> <p>町行政の事業全体を学ぶことを通して高校生年代であまり関わったことがない課題まで視点を広げて、町の持つ課題について理解を深めることと同時に、ありたい町の姿について考える。</p> <p>[内容]</p> <p>町の総合計画で掲げられた事業をグループごとに調べ、削減する事業を選び、残った事業を大切にしている町はどのような町なのかをポスターにまとめていく。</p>	<p>地域課題を知る</p> <p>町の行政課題を知り、幅広い領域から考える視野をもつ。</p>
12月	<p>三陸復興ラーニングジャーニー</p> <p>[目的]</p> <p>同様の問題を抱える三陸沿岸の市町村のまちづくりを支える事業者への視察や体験を通して、大槌町における課題の解決策を考える一助とする。</p> <p>[内容]</p> <p>三陸沿岸で町の課題に向き合い、事業を興している取り組みへの視察やそれぞれの取組の理解につながる体験をグループに分かれて行う。</p>	<p>他地域の課題解決策を知る</p> <p>地域課題解決のモデルケースにふれ、自地域での課題解決をイメージする。</p>
1月～2月	<p>1週間マイプロジェクト</p> <p>[目的]</p> <p>自ら身の回りにある課題を設定し、1週間の間に行うことのできる解決に向けての具体的なアクションを行うことを通して、次年度に行うマイプロジェクト（課題解決型探究）のイメージを掴む。</p> <p>[内容]</p> <p>自らの普段気になっていることから、1週間の間に行</p>	<p>自らが行う課題解決の枠組みを知る</p> <p>・身近なテーマで小さなプロジェクトを実践し、課題解決の作法を知る。</p>

	うことのできるプロジェクトを一人ひとりで設定し、プロジェクトによって解決できたことを振り返る。	
--	---	--

イ 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け
(各教科・科目や総合的な学習(探究)の時間、学校設定教科・科目等)

学校設定科目「三陸みらい探究」は1学年2単位、2学年2単位、3学年1単位とし、今年度、科目開始学年の1学年では、総合的な探究の時間を1単位、これまで「社会と情報」の時間であった1単位を代替し、計2単位で行った。

三陸みらい探究では、2学年において各生徒がテーマを設定して行うプロジェクト学習を実施する。1学年は自己理解活動や大槌町の行政課題を知る活動、課題解決の事例視察や体験活動等の機会を設定し、2学年での探究活動に向け、自身の在り方生き方と密接に結びついた地域課題への気づきを醸成する期間として位置づけている。

また、三陸みらい探究における学習評価は、今年度は魅力化評価システムを活用して行っていたが、令和2年度よりルーブリック評価をアンケートによる自己評価と教員による評価で実施する。取り組みの評価については魅力化評価システムを継続活用する。

令和元年度の指導体制については、カリキュラム開発等専門家が主担当となって活動内容を検討し、各学年団と打ち合わせを行った上で授業を展開した。毎時の活動には学年団の教員全員が参加し、プレゼンテーションの作成やグループ討議、プロジェクトの立案など生徒の活動を支援した。

ウ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

今年度は各教科の教員も積極的に学校設定科目「三陸みらい探究」の企画・運営に参加し、本科目が目指すもの、育てている資質・能力について理解を深めることができた。次年度以降、「三陸みらい探究」を中心に据えながら、具体的にそれぞれの教科に横断的に活かすような取組を行っていく。

エ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

学校内にカリキュラム開発等専門家と地域協働学習実施支援員が常駐し、コンソーシアムや大槌高校魅力化構想会議の運営、町行政との連携・連絡、地域と連携した学校設定科目をワンストップで行う体制としたことで、目指す理念からカリキュラムまで一貫したねらいを持って運営することができた。またそれぞれの学年にカリキュラム開発等専門家や支援員を配置することで、より生徒の実態を捉えた取り組みを行うことができた。次年度以降は教育課程編成のワーキンググループを設置し、令和3年度の変更に向け準備を行う。

オ 学校全体の研究開発体制について(教師の役割、それを支援する体制について)

教職員は「三陸みらい探究」の授業を行うため、週に1度、事前に打ち合わせを行い、各授業のねらいや進め方について検討を行う。また各授業には学年を担当している教員も一緒に授業に参加し、班のファシリテーターなどを行っている。

また随時研修等も行っており、今年度は隠岐國学習センターの豊田庄吾氏や、東京大学教育学部教授の牧野篤氏による研修会を行って頂いた。

カ カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーの学校内における位置付けについて

(ア) カリキュラム開発等専門家について

a 認定 NPO 法人カタリバ 菅野祐太氏（大槌町から NPO への業務委託）週 5 日常駐

b 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
毎月 1 回	大槌高等学校の職員会議に出席 ・魅力化の取り組みの進捗や運営指導委員会やコンソーシアム等開催された会議の内容を共有
毎週 1 回	1 学年の学校設定科目「三陸みらい探究」の運営 ・学年団教員との打ち合わせし、次回の授業の方針を決定 ・週 2 コマの授業を担当
不定期	上記、コンソーシアム魅力化に関する会議の企画運営
令和元年 5 月 16 日 令和元年 9 月 18 日	教職員向け魅力化協議研修会の開催 ・魅力化で育てたい高校生の姿 ・魅力化を進めるためのコンセプト

(イ) 地域協働学習実施支援員について

a 認定 NPO 法人カタリバ 起塚拓志氏（大槌町から NPO への業務委託）週 5 日常駐

認定 NPO 法人カタリバ 三浦奈々美氏（大槌町から NPO への業務委託）週 4 日常駐

b 実施日程・実施内容

日程	内容
毎月 1 回	大槌高等学校の職員会議に出席 ・魅力化の取り組みについての共有
毎週 1 回	2 学年の総合学習の運営 ・学年団教員との打ち合わせし、次回の授業の方針を決定 ・週 1 コマの授業を担当
令和元年 7 月 5 日 令和元年 9 月 12 日 令和 2 年 1 月 24 日	「大槌発みらい塾」の企画運営 ・地域の方々による 1・2 学年向け職業講話 ・慶應義塾大学学生による 1・2 学年向け授業 ・日本テレビ記者によるニュースリテラシー授業
令和元年 10 月 15 日	地域と連携した大槌高校文化祭における地域との調整

キ 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

研究開発・推進に関わる各施策は、学校長の下副校長が主に担当しており、必要に応じて校務運営委員会や職員会議で諮られる。また校内教職員で行う、年度中間反省会議や年度末反省会議で成果や課題について共有し、取り組みについての意見交換を行う。

ク カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

コンソーシアムの各機関との連携を図りながら進めているところである。またカリキュラム開発については会議等で各関係機関の特色を生かした内容について意見を交わしている。具体的な取り組みについては、以下に例を示す。

コンソーシアム関係機関	内 容
町立学校	・三陸みらい探究の授業における自分紹介プレゼンテーシ

	ヨンを高校生が中学生に発表 ・教職員の授業見学などの交流研修
大槌町役場	・三陸みらい探究「SIM おおつち 2030」実施における企画サポート ・高校生による行政事業の調査ヒアリングへの協力
東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター	・次年度のマイプロジェクトのテーマ設定等に役立てるため、研究者の研究内容を高校生に紹介（予定）

ケ 運営指導委員会について

(ア) 運営指導委員会の構成員

所 属・役職等	氏名
東京大学教育学部 教授	牧 野 篤
岩手大学農学部 教授	廣 田 純 一
東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター 准教授	田 中 潔
おらが大槌夢広場 代表理事	神 谷 未 生
認定 NPO 法人カタリバ 代表理事	今 村 久 美
大槌町教育委員会教育長	沼 田 義 孝
大槌町立大槌学園 学園長	松 橋 文 明
大槌町立吉里吉里学園中学部 校長	金 野 節

(イ) 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
(第1回) 令和元年11月12日	第1回会合 ・学校設定科目「三陸みらい探究」の授業見学 ・研究計画に対する専門的見地からの指導・助言
(第2回) 令和2年2月6日	第2回会合 ・研究成果の評価・分析と、次年度以降へ向けての指導助言

コ 類型毎の趣旨に応じた取組について

地域魅力化型では、衰退しつつある地域の振興につながる取り組みを行っていく必要があると考え、魅力ある高校教育づくりと地域振興がどのようにつながっているのか、地域住民と共に考える機会として、「大槌高校魅力化構想懇談会—高校生×地域—」を行い110名の方が来場した。2年生以降は、生徒が個別に策定するマイプロジェクトを、地域を舞台に行うことで、地域そのものを学びの題材としながら、地域振興にもつながる取組を行っていく。

サ 成果の普及方法・実績について

活動の内容や状況については学校ホームページに掲載している。また、各種報道機関へプレスリリースし活動を公開しており、テレビ・新聞等で取り上げられている。

また、岩手県の教職員向けの公開授業と探究に関する研究会を開催した。40名程度の教職員が来校し本事業の知見を共有した。その他にも県内から2校、県外から1校、また岩手県議会文教委員会の視察を受け入れ、積極的に知見や現状・課題を発信した。

8 目標の進捗状況、成果、評価

本事業申請時に提出した目標設定シートに準じて進捗状況の成果を検証する。

- (1) 卒業時に生徒が習得すべき具体的能力を測るものとして設定した成果目標
下記指標に対する4件法による1学年へのアンケートの肯定的回答の割合

番	設問	2月 回答時	6月 回答時	差分
1	課題の発見と解決に必要な知識および技能	63.4%	59.5%	3.9%
	—自分で計画を立てて活動することができる	61.0%	57.1%	3.9%
	—現状分析し、目的や課題をあきらかにすることができる	65.9%	61.9%	4.0%
2	探究の意義・価値理解、地域社会との関わり合い	47.6%	71.5%	-23.9%
	—地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	53.7%	76.2%	-22.5%
	—誰かに言われなくても自分から勉強する	41.5%	66.7%	-25.2%
3	課題発見・解決への指向	61.0%	76.2%	-15.2%
	—情報を、勉強したことと関連づけて理解できる	63.4%	81.0%	-17.6%
	—地域や社会での問題や出来事に興味がある	58.5%	71.4%	-12.9%
4	主体性・協働性	58.5%	65.5%	-7.0%
	—忍耐強く物事に取り組むことができる	58.5%	64.3%	-5.8%
	—自分の考えをはっきりと相手に伝えることができる	58.5%	66.7%	-8.2%
5	価値創造への提案と次へつなげる学び	47.6%	64.3%	-16.7%
	—国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい	34.1%	47.6%	-13.5%
	—学習を通じて、自分がしたいことが増えている	61.0%	81.0%	-20.0%

[考察]

- ・今年度の取り組みは、地域課題の把握や分析をする取り組みが主だったため、課題分析に必要な知識技能については生徒自身が成長を感じているが、その他の項目については地域課題の難しさを知ったことにより減じた可能性がある。
- ・生徒が次に何かをしたいと思うような「主体性」や「価値創造への提案」などについては次年度に改善する必要がある。

- (2) 卒業生の中で県内就職者・県内進学者数の占める割合

	R1 実績	目標値(R3)
B 卒業生の中で県内就職者・県内進学者数の占める割合	55.6%	70.0%

- (3) 地域人材を育成する高校としての活動目標

	R1 実績	目標値(R3)
A 生徒が外部団体へ本校の取り組みをプレゼンテーションする機会の回数	20回	30回
B 外部から講師を招いて行う授業や講演会の回数	19回	15回

- (4) 地域人材を育成する地域としての活動指標

	R1 実績	目標値(R1)
a 大槌高校魅力化構想会議の年間開催回数	3回	4回

9 次年度以降の課題及び改善点

(1) 次年度以降の課題及び改善点

ア 目指す人材像を核としたカリキュラム・マネジメントの実施

大槌高校魅力化構想骨子で示した目指す人材像を核として、目指す人材像を育成するために必要となる教育課程の編成を行う。生徒の希望する進路や、興味関心、習熟度に合わせて、既存の教育課程の見直しを行う。コンソーシアムを基盤として、地域社会を探究的に学ぶ資源の発掘、コーディネートも積極的に行う。

イ 研究全体や三陸みらい探究の評価

今年度は三菱UFJリサーチ&コンサルティングが提供している魅力化評価システムを活用し、特に運営指導委員会において研究開発全体の評価を定量的に行った。次年度も本システムの継続を前提としているが、有効な検証の方法や検証の会議体の再設定など検討をする必要がある。

また学校設定科目「三陸みらい探究」の取り組みの評価や生徒の活動評価についても次年度以降は見直しをかけていきたいと考えており、継続可能性が高く、評価の有用性が高いルーブリックの策定などを検討していきたい。

ウ 継続可能な体制づくり

今年度は事業がはじまった初年度であり、カリキュラム開発等専門家や地域協働学習実施支援員は以前にも類似の取り組みを行ったことのある経験者が担っている。ただ今後の継続のためには、属人的ではない仕組みづくりを行う必要があり、教職員との役割分担なども含め検討していく必要がある。

(2) 今後のスケジュール

年 度	内 容
令和元年度 (本年)	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マネジメントの中心に据える大槌高校魅力化構想骨子を策定。目指す人材像等を明示。 1学年で三陸みらい探究を実施。
令和2年度 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> 魅力化構想骨子の下に教育課程編成を見直し、令和3年度からの実施に向けての準備を開始。 三陸みらい探究を1学年・2学年の両学年で実施。 公営の社会教育施設（公営塾）との連携を開始。探究的な学習の放課後支援の体制づくりを推進 持続可能な体制の検討
令和3年度 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> 改編した教育課程の実施 三陸みらい探究を全校で実施 持続可能な体制での実施

【担当者】

担当課	学校教育課 高校教育担当	TEL	019-629-6140
氏名	高橋直樹	FAX	019-629-6144
職名	主任指導主事	e-mail	takahashi-naoki@pref.iwate.jp